

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年11月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700350		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホーム ほろむい二号館		
所在地	岩見沢市幌向北二条一丁目611-109 (電話) 0126-26-5673		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】 (19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・○平成 16年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤11人, 非常勤3人, 常勤換算6.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1階建ての ~1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	無		暖房費 4,500円
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	516 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,266 円		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	5名	要介護2	8名
要介護3	3名	要介護4	2名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 88.4歳	最低 80歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩見沢北翔会病院、岩見沢脳神経外科、田中クリニック 牧病院、倉増整形外科、カムピラ歯科クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ほろむい二号館」は、のどかに広がる田園風景の一角に建てられており、地域の方々との関係も良好で、のんびりと穏やかに過ごすことのできるホームである。別棟には同系列のグループホームとデイサービスが建てられており、適度に連携をとりながら運営されている。ホーム内は1年中暖かい中庭を挟み2ユニットフラットな造りになっている。洗面所やトイレも広く台所も対面式になっており使いやすくなっている。また、家族の宿泊や将来ショートステイの利用も可能なように多目的室も用意されている。医療面では緊急時に対応できる医療機関のバックアップ体制や職員の中に看護師もおり、利用者が安心して暮らすことができる。利用者の表情も明るく職員との会話や利用者同士の会話も多く和やかな雰囲気である。代表者及び施設長、管理者、職員は利用者や家族の声に耳を傾け常に話し合いを持ちながら尽きることのないケアサービスの質の向上に情熱を持って取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点、介護計画の見直し、研修の受講、注意の必要な物品については改善されている。苦情申し立てについては重要事項説明書にも行政の窓口を明示することが望ましい。職員と利用者が一緒に食事をしていただくよう希望する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は評価の意義や活用の仕方を理解しており、今回の自己評価も全職員で取り組んでいる。会議においても自己評価について話し合い、職員間での共有を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成18年5月から、2ヵ月に1度順調に会議が開かれている。地域に根ざしたホームのあり方を念頭に置き、意見交換を行ない、会議の内容を事業所の運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「意見箱」も設置してあるが、家族が来訪した際に意見を伺ったり、利用者の様子をお知らせしたりしている。運営推進会議には、家族の参加も依頼しており意見や要望を出す機会を設け今後の運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開所当時から地域の方々の理解があり、町内会にも加入し利用者と一緒に地域のお祭りや「ほろむいフェスタ」にも参加するなど地域とホームの絆の強化に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所以来、事業所が定める独自の運営理念を掲げて日々のケアに活かし努力をしている。	○	ホームとして、地域密着サービスの意義を確認し、地域の一員としての人間関係を築き交流を深める理念をパンフレットにも掲げ、事業の方針目標に繁栄させる取り組みを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議やユニット会議の際、運営理念をもとに話し合いをし、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所当時から地域の方々の理解があり、町内会にも加入し利用者と一緒に地域のお祭りや「ほろむいフェスタ」にも参加するなど、地域とホームの絆の強化に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価の意義や活用の仕方を理解しており、具体策を検討し実践に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年5月から2カ月に1度順調に会議が開かれている。地域に根ざしたホームのあり方を念頭におき、意見交換を行ない会議での内容を事業所の運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、「ホーム便り」や推進会議の議事録を届けたりした際に、担当者と話をしたり、会議に参加をしたりして、常に連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2カ月に1度ホームでの暮らしの様子が掲載されているホーム便り「ほろむい」をユニット毎発行し家族に送付している。また、今のところ1ユニットだけではあるが、一人ひとりにお手紙を書き利用者の近況をお知らせしている。金銭出納の明細も郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」も設置してあるが、家族が来訪した際に、意見を伺ったり利用者の様子をお話したりしている。運営推進会議には家族の参加も依頼しており意見や要望を出す機会を設け、今後の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどなく、ほかのユニットとの利用者との交流もあり、馴染みの関係ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、研修に参加する機会を設けており職員は積極的に参加をしている。研修後はレポートを提出、回覧し、研修記録も作成し職員が閲覧できるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域がら同業者が少なくネットワークづくりまでには至っていないが、近くの老健施設との交流を図ったり勉強会の取り組みを予定している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスを開始するのではなく、利用者や家族にホームを見学して頂いたり、自宅を訪問したりして利用者が安心して生活ができるように充分話し合いを持ちながらホームの雰囲気に馴染めるよう配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で職員が利用者から、調理の仕方や生活の知恵を教えて頂いたりしながら、利用者の気持を汲取り支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との生活の中で一人ひとりの思いなどを大切にし、希望の把握に努めその人らしい生活を過ごせるよう支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見や希望を取り入れ利用者にとってより良い暮らしができるように、ミーティングや月1回の全体会議などで検討し、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎の見直しを行なっているが、利用者の状態の変化に応じてその都度見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて、買物や病院の送迎をしたりと、その時々で柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回訪問診療を受けている。緊急時の対応も可能である。ホーム内には看護師もおり適切な医療を受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応指針など、運営者、管理者、職員、医師、家族と十分話し合いを持ち、その時々により確認をし慎重に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドを傷つけないような言葉掛けを行なっている。個人情報取り扱いも利用者、家族の同意を得ており記録なども保管場所を決めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの声に耳を傾け会話を大切にしている。利用者の状態や希望に合わせてできる限り、日々その人らしい暮らしができるように見守り支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に食事の準備や後片付けなどできる範囲でお手伝いをしているが、職員は利用者と一緒に食事を取らず見守りをしている。	○	行事のときは一緒に食事をしているが、職員と一緒に食事をする事が楽しみになるよう、毎日の食事と一緒にして頂けるよう取り組みが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯を決めており、最低週2回は入浴して頂いているが、決められた日以外でも利用者の希望に応じて支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴を把握しており食器の後片付けや掃除、楽器演奏、折り紙、習字のほか、棒体操、手組体操なども取り入れ利用者が得意とすることをさりげなく見守ったり支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や状況に応じて、毎日のように散歩や買物に出掛けたり、外食や動物園、パワースターションなどにも行き気分転換ができるように支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニット入り口には鈴をつけて人の出入りがわかるようになっており、玄関も日中は鍵をかけないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルもあり、消防署の協力を得て、全職員、利用者も参加し、年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。運営者はAEDの講習も受けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がおり栄養のバランスを考えたメニューとなっている。一人ひとりの食事や水分摂取量も把握しており状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく中庭や窓から自然の採光が取り入れられている。不快な音もなく季節の花を飾ったりスナップ写真を貼ったり、利用者と一緒に作った作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者が使い慣れた馴染みの家具や趣味のものなどが持ち込まれ、その人らしい居室となっており、利用者が居心地良く過ごせるような空間となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。